

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176000040		
法人名	グリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ 第1ユニット		
所在地	北海道三笠市高美町444番地		
自己評価作成日	平成28年6月8日	評価結果市町村受理日	平成28年8月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0176000040-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に合わせ、個別のケアに努めています
地域の人との関わりを大切にし、ホームの行事に招待したり、地域行事に参加しています。
利用者の好みや体調を考慮しながら、外出の機会を多く取り入れています

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年7月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、三笠市の中心部の閑静な住宅街に位置し、平屋建て2ユニットのグループホームである。ホームからは豊かな自然が眺められ、隣接して法人の2つのグループホームがあり、利用者同士、合同の行事、日常の交流に、心豊かな時をゆったりと送っている。利用者は、地域の人と笑顔で挨拶を交わし、地域の清掃活動などに参加するとともに、焼肉会やミニ緑日などに参加する多くの地域の人や児童、ボランティアなどと相互の交流を深め、地域の一員として溶け込んでいる。食事は、好みを反映した献立、季節の食材、菜園での新鮮な野菜・果物が取入れられ、職員とともに楽しくテーブルを囲んでいる。また、散歩やドライブ、花見やりんご狩り、紅葉狩りなど四季折々の外出行事にも恵まれている。健康面では、今まで通っていた医療機関を継続して受診し、24時間対応の医療機関との連携も良く、安心した生活とともに終の棲家としても日々穏やかな生活を送っている。家族は、夏祭り・焼き肉会などの行事と一緒に参加し、互いの絆を深めあい、毎月のお便りや、詳しい生活の様子を記録した生活状況報告で安心とホームへの信頼感を深めている。利用者の静穏な生活と家族の安心を支えている職員は、施設長・管理者とともにチームワークよく、自ら研鑽し、知識と技術の向上、利用者へのサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との繋がりを重視した理念を職員全員で策定し、理念に基づいた支援を心掛けている。スタッフ研修では常に理念の再確認を行っている。	3つの介護理念が実践に結びつくよう対応方法を具体化して施設内に掲示するとともに、スタッフ研修で再確認を行うなど、職員が一体となって理念の実践とサービスの向上に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は通院、買物、行事等に地域の一員として積極的に参加し交流を続けている。ホーム行事に地域の人達も参加され、町内会活動に協力している。	地域の一員として町内清掃、資源回収などの町内会行事に参加するとともに、ホームの焼き肉パーティー、ミニ縁日などには多数の地域の人や児童が参加して相互交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の支援について理解を深めて頂くよう、市内外からの見学を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットを順に会場とし利用者やサービスの実際を理解して頂けるよう工夫している。議事録をスタッフへ回覧し内容の把握をしている。貴重な意見は今後の取り組みとしている。	隣接する法人の3つのグループホーム合同で、利用者・家族、地域包括支援センター、町内会、民生委員参加のもと定期的に開催している。会議では、各ホームからの詳しい現状報告、意見交換が行われ、そこでの意見を運営に反映するよう努めている。	会議では、利用者の状況、行事や職員状況、運営などの報告が詳しく行われているが、出席者から多くの発言や意見を引き出し、また、関心事項の情報提供など、更なる会議の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に担当者が出席され、助言や協力を頂いている。	運営推進会議への担当者の出席のほか、施設運営について、介護保険課、保護課と連携を図りながら行っている。また、地域ケア会議が立ち上がり地域の福祉推進への寄与が期待される。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会では外部研修に参加し、施設内研修を行なっている。	身体拘束や虐待の防止について、外部研修参加や施設内研修、伝達研修を行って、防止への理解を深めている。言葉による抑制については、検討会で話し合い、適切な言葉掛けに努めている。玄関の施錠は昼間は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会では、施設内研修を行なっている。不適切ケアについて、全員が検証して虐待を予防している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員のみ研修に参加。ご家族の希望で、一名の方は成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ホームに来院して不安や疑問点を尋ねてもらい、重要事項説明をしています。改定等は前もって文章を説明、同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族と会話のできる雰囲気を作る様に心掛け、要望を聞くようにしている。ポスターを掲示して外部機関を知らせている。	家族の来院時には、話しやすい雰囲気の中で家族の話にじっくりと耳を傾け、また、近況を知らせ要望などを汲み取るよう努めている。毎月のお便りには、日常生活の様子、食事・排泄・入浴・歩行の様子、医療の様子を個々に「生活報告書」として伝え、家族の安心と信頼を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、申し送りノート、日常の会話等で意見や提案が出されている。都度反映されたり管理者会議で検討している。	管理者は職員会議や日常の会話などで常に職員の意向を汲み取るよう心掛けている。また、定期的に面談し、意見や提案は運営面に入入れ、やりがいと意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日常現場に出て、スタッフの様子、行なわれている支援を把握している。年度末にプロセスチェックシートを使い自己評価と照らし合わせ面談をし、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加している。ホーム内研修では、経験・実務年数に分かれそれぞれに合った内容で研修を行ない、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへ実習に行ったり、外部研修で知り合った同業者との交流を行ない情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や入居前訪問で本人の状況を把握するよう努め、入居後はスタッフ間で情報を共有し合い本人に寄り添う時間を多くして、気持ちを受容し不安・不満を溜めないよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフは挨拶から始まり、話しやすい雰囲気作りに努め、これまでの生活歴を時間をかけて聞き、家族の要望を取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人・家族の求めていることを確認し、可能な限り柔軟な対応を行なっている。場合によっては他の事業者のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての立場を優先し、暮らしの中で穏やかに生活して頂ける様接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	たんぽぽ通信、生活状況報告など書面での家族への伝達や来訪時の会話、遠方の家族への電話支援等本人同様に大切な存在として捉えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅生活中からの馴染みの理美容室を利用。また、命日に月参り、地域の友人・知人の訪問を日頃から大切に継続して支援するよう努めている。	友人・知人の来訪時は自由にゆっくと交流できるよう配慮している。遠方からの来訪には一緒に泊まったり食事することも可能である。行きつけの美容院や店の利用、ドライブ中の馴染みの場所への立ち寄り、初詣、お坊さんの月参りなどこれまでの生活習慣が継続されるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりや性格を考慮して食卓の配置を行ない、散歩・買物も気の合う人が数人で出掛けている。月に一度の音楽療法や散歩時には他ユニットと、交流している。トラブルが起きそうな時はスタッフが間に入っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とは地域で会った際に近況を伝え合ったりしている。死去が理由の多くで本人は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、希望や意向を把握するよう努め、家族と相談しながら本人の思いに沿ったケアが出来る様に検討している。	本人や家族との会話から意向を汲み取るよう努めているほか、日常生活や行動からの気付き、好みなど連絡ノートや支援記録に記載し、職員共有のもとケアの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報や家族・本人との会話から生活歴の情報を聞きとるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録に日常の過ごし方や心理状況を記録し、できる事・できない事を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換をしモニタリング・カンファレンスを実施している。介護計画作成時は家族の意見が聞ける様連絡を取り合っている。	日々の支援記録、連絡ノートの内容を踏まえ、担当者のモニタリング、本人・家族の意向や医師の意見を盛り込んだ介護計画作成者の作成する原案を職員全員で検討している。介護計画は、3か月毎に見直し、入退院や状況に変化のあった時には随時見直し現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録には身体・心理状況など暮らしの様子を記録し、職員の気付きは連絡ノートで共有されて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的に重度化しても往診医療機関に移行し、訪問看護を利用する等生活の継続を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしと繋がっている資源は継続して支援している。施設行事では介護ボランティアが多く参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせて、協力医療機関の他、かかりつけ医の受診・往診、専門医での診療など複数の医療機関と関係を密にしている。	本人や家族の希望する医療機関の受診や訪問診療が受けられるよう支援している。緊急時にも適切な医療が受けられるよう、24時間対応の医療機関と密な連携体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体変化把握の為、医療ノートやチェックシートへ記録し、訪問看護師やパート看護師に相談・指示・指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換し早期退院に繋げている。家族への説明時には同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期ケアの説明をし、本人・家族の意見を聞き、希望により同意書を作成している。終末期を迎える前に往診医に転院して頂き支援している。	契約時に重度化や終末期に向けた指針に基づき説明している。重度化した時は改めて家族・医師・ホームで何度も話し合い、家族の意向を尊重し、同意を得て看取りを行っている。これまで多くの看取りを行っており、ターミナルケアの研修受講など、穏やかな看取りができるよう環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て応急手当や初期対応の訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行ない、災害時の避難に備え避難先の施設も想定して協力体制をとっている。年に一回札幌市防災協会の研修を受講し取り組んでいる。	消防署指導のもと地域の人の参加を得て、夜間想定避難・通報・消火訓練を行っている。緊急連絡網の整備、避難場所の確認、非常時備蓄を行っている。	火災に対する避難訓練を行っているが、地震時に身を守る訓練などの自然災害に対する訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導などの言葉掛けには本人を傷つけない様配慮している。ミーティングで日々の関わり方を周知している。	トイレの誘導には、本人を傷つけないよう非言語も交えそっと誘導するなど、常に一人ひとりに適切な言葉掛けを心掛けている。個人台帳などはスタッフルームの書庫で適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合った話題の言葉掛けをし、意思を汲み取れる様な会話にも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の動きはあるが、個々の日課・体調を考慮し個別の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時や、髪伸び具合など声掛けし身だしなみを整えている。本人が衣服を選び外出時はお洒落ができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ、苦手なメニューは個別に代替食を用意している。職員と利用者と一緒にテーブルに着き準備や片づけをしている。	ユニットごとに職員が利用者の好みを反映した献立を作成し、季節の食材を取り入れ、利用者と共に食卓を囲んでいる。菜園で育てた新鮮な野菜や果物が並ぶこともあり、回転ずしなどの外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録して把握し、少ない時は提供の仕方を検討している。減塩指導のある方は塩分量に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の口腔チェックを受け、全員が口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して一人ひとりの状況に合わせ、さりげなく誘導しトイレで排泄できる様支援している。	トイレでの排泄ができるよう一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。退院時のオムツ使用者には、直ぐに、オムツを使用しないケアを心掛けている。夜間には安眠を妨げないようサブパットの取り換えを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動、食事を優先し、個々の状況に応じた予防をしている。必要に応じて医師より処方された服薬にて排便を促す支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を重視し、ほぼ毎日入浴準備をしている。時間帯は午後からになるが、希望の時間に浴う様にしている。	最低、週2回以上の入浴を目標とし、同性介助の希望にも応じている。また、体調に応じたシャワー浴や入浴剤の使用、楽しい会話など、リラックスして入浴を楽しめるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズム、習慣に合わせた就寝支援をしている。午睡も摂って頂き、休息が保たれる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容、薬効、副作用が把握できるよう薬ファイルを作成している。変更時は申し送り、職員会議などで周知し症状の変化を確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から本人のやりがいを探し希望を聞き、畑仕事・買物・音楽鑑賞等支援している。食器拭き・洗濯たたみ・掃除等個々のできる事を一緒に行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や身体状況を踏まえ、できる限り戸外へ出る支援をしている。市外へのドライブも多く、観光と食事を兼ねて出掛けている。	天気の良い日は努めて外気に触れるよう取り組んでいる。散歩やドライブ、個人に合わせた買い物、花見やりんご狩り、紅葉狩り、外食など、四季折々の多彩な行事が企画されている。たんぽぽの花の襷をつなぐ法人3ホーム合同の「RUNほぼ」では、利用者の明るい笑顔が満ちている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々で金額の差はあるが、お財布の管理をしている方もおり、外出時に買物されたり職員に依頼して購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望された時や家族から郵便物が届いたとき等電話をかけて話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭の家具を配置し、廊下や居間に季節感ある飾り付けをしている。日差しの強い時はスクリーンで光の調節を行なっている。	エアコンを設置し温湿度、採光、換気の管理をこまめに行い、快適な生活ができるよう心掛けている。家庭的な住居を目指して居間・食堂にはたたみスペースがあり、季節を反映した壁面飾り、生花が飾られ、生活に潤いを添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室・廊下・玄関前に椅子を置き、一人ひとりの好みに応じて過ごせる空間が用意されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品を持ち込み家族と共に居室を用意している。仏壇を設置して安心して暮らさせたり、テレビを用意して鑑賞する事を喜んでいる。	8帖の広い居室にはクローゼットが設置され、利便性と窓からの見晴らしにも恵まれている。使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、写真など思い思いに飾り付け、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置、洗面所は車椅子対応、対面キッチンや下膳しやすいなど、自立した生活ができる様工夫されている。危険を予測し、安全な空間を提供するよう工夫している。		